

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成25年2月14日

【四半期会計期間】 第35期第3四半期(自平成24年10月1日至平成24年12月31日)

【会社名】 株式会社安楽亭

【英訳名】 ANRAKUTEI Co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 柳 時機

【本店の所在の場所】 埼玉県さいたま市中央区上落合二丁目3番5号

【電話番号】 048-859-0555(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役財務経理部長 安部 一夫

【最寄りの連絡場所】 埼玉県さいたま市中央区上落合二丁目3番5号

【電話番号】 048-859-0555(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役財務経理部長 安部 一夫

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第34期 第3四半期 連結累計期間		第35期 第3四半期 連結累計期間		第34期	
		自 至	平成23年4月1日 平成23年12月31日	自 至	平成24年4月1日 平成24年12月31日	自 至	平成23年4月1日 平成24年3月31日
売上高	(千円)		11,077,668		11,844,181		14,941,395
経常損失()	(千円)		251,300		76,336		251,974
四半期(当期)純損失()	(千円)		328,006		15,320		474,483
四半期包括利益又は包括利益	(千円)		331,771		14,959		472,332
純資産額	(千円)		4,867,652		4,710,761		4,726,951
総資産額	(千円)		14,151,793		13,872,014		14,132,596
1株当たり四半期(当期) 純損失金額()	(円)		15.33		0.72		22.18
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)						
自己資本比率	(%)		34.3		33.9		33.4

回次		第34期 第3四半期 連結会計期間		第35期 第3四半期 連結会計期間	
		自 至	平成23年10月1日 平成23年12月31日	自 至	平成24年10月1日 平成24年12月31日
1株当たり四半期純利益金額 又は四半期純損失金額()	(円)		1.68		2.69

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、1株当たり四半期(当期)純損失であるため、記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、連結子会社のうち、(株)サリックスマーチャングイズシステムズ(存続会社)と(株)デイリーエクスプレス(消滅会社)及び(株)相澤(存続会社)と(株)二十一屋(消滅会社)は、平成24年4月1日付で合併しております。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当社グループは、当第3四半期連結会計期間において下記シンジケートローンの各金銭消費貸借契約の返済条件変更につき、それぞれにおいて引き続き協定を平成24年11月30日に更新しております。

契約書の日付	債務者	主幹事行	相手先	期末残高(千円)
平成16年8月31日	(株)安楽亭	(株)みずほ銀行	日新火災海上保険(株) 台湾銀行(株) 他合計16の金融機関	620,944
平成17年9月12日	(株)安楽亭	(株)みずほ銀行	(株)三井住友銀行 (株)商工組合中央金庫 台湾銀行(株) (株)静岡銀行 他合計19の金融機関	1,869,754
平成20年3月31日	(株)安楽亭	(株)横浜銀行	(株)横浜銀行 (株)商工組合中央金庫 三菱UFJ信託銀行(株) (株)りそな銀行	1,261,527
平成18年2月9日	(株)サリックスマーチャン ダイズシステムズ	(株)みずほ銀行	(株)みずほ銀行 (株)横浜銀行 他合計6の金融機関	567,493

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災からの復興需要を背景に緩やかな回復傾向が見られたものの、欧州債務問題や世界経済の減速、近隣国との関係悪化、長期化する円高、デフレ等の影響から依然として先行き不透明な状況が続きました。

外食業界におきましても、消費税増税法成立や雇用環境も停滞傾向にあり、生活防衛意識の高まりによる消費者の節約志向は依然として根強いものがあります。また、牛肉や米、電気・ガス等のエネルギーコストの上昇等、厳しい経営環境が続いております。

このような状況下、当第3四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高118億44百万円（前年同四半期比6.9%増）、営業損失21百万円（前年同四半期は営業損失1億74百万円）、経常損失76百万円（前年同四半期は経常損失2億51百万円）となり、また、受取補償金2億51百万円を特別利益に、減損損失1億23百万円（当第3四半期連結会計期間は80百万円）を特別損失に計上したことにより、四半期純損失は15百万円（前年同四半期は四半期純損失3億28百万円）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

安楽亭業態

安楽亭業態の当第3四半期連結会計期間末の店舗数は200店舗であります。内訳は直営161店舗、暖簾5店舗、FC34店舗であります。

販売促進につきましては、〔WEB限定風邪撃退クーポン登場!〕、〔秋のクーポン総選挙〕、〔アメ

リカンジャンボフェア)といった安楽亭の楽しさを伝えるフェアを開催してまいりました。また、キャンペーンを月例の定例タイミングのみならず〔一週間限定〕や〔店舗・地域限定〕の特別企画とするなど、趣向を凝らした新たな取組にも着手しております。

商品開発におきましては、近年利用の増加が顕著なシニア層ないし女性層に訴求する新商品としてヘルシーな赤身肉の焼肉商品や、お一人様向けの定食商品のご提案を続けております。また、仕入/製造/物流/販売を一貫する当社サプライチェーンを基盤とした衛生管理マネジメントを活用し、厚生労働省が定めた「生食用食肉の規格基準」を充足した牛ユッケの販売店舗の展開を進めております。

以上の結果、安楽亭業態の当第3四半期連結累計期間の売上高は100億34百万円（前年同四半期比6.7%増）となり、セグメント利益は3億1百万円（前年同四半期比76.6%増）となりました。

七輪房業態

七輪房業態の当第3四半期連結会計期間末の店舗数は23店舗であります。内訳は直営21店舗、F C 2店舗であります。

販売促進並びに商品開発につきましては、〔秋の収穫！きのこ狩りフェア〕、〔食欲の秋！味くらべ祭〕、〔大感謝祭〕等、七輪房の楽しさを伝えるフェアを開催してまいりました。また、七輪房宇都宮宿郷店においては牛ユッケの販売を再開しております。

以上の結果、七輪房業態の当第3四半期連結累計期間の売上高は13億69百万円（前年同四半期比11.9%増）となり、セグメント利益は82百万円（前年同四半期比320.9%増）となりました。

その他業態

その他業態の当第3四半期連結会計期間末の店舗数は17店舗であります。内訳は直営9店舗、暖簾2店舗、F C 6店舗であります。

なお、その他業態には、「からくに屋（焼肉）」、「楽コンセプト（焼肉）」、「まんぼく（焼肉）」、「国産牛カルビ本舗安楽亭（焼肉）」、「和牛カルビ屋（焼肉）」、「春秋亭（和食）」、「上海菜館（中華）」、「龍饗（中華）」、「カフェビーンズ（喫茶）」、「A G R I C O（イタリアンカフェ）」、「K A R I N（スンドゥブダイニング）」を含んでおります。

以上の結果、その他業態の当第3四半期連結累計期間の売上高は4億40百万円（前年同四半期比2.8%減）となり、セグメント損失は41百万円（前年同四半期はセグメント損失36百万円）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末の資産は、前連結会計年度末に比べ2億60百万円減少し、138億72百万円となりました。これは主に、有形固定資産の売却及び減価償却等が要因です。負債は、前連結会計年度末に比べ2億44百万円減少し、91億61百万円となりました。これは主に、借入金の減少等が要因です。純資産は、前連結会計年度末に比べ16百万円減少し、47億10百万円となりました。これは主に、四半期純損失の計上によるものです。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	80,000,000
計	80,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成24年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成25年2月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	21,504,347	21,504,347	東京証券取引所 市場第二部	単元株式数は 1,000株であります。
計	21,504,347	21,504,347		

(注) 提出日現在発行数には、平成25年2月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は、含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成24年10月1日～ 平成24年12月31日		21,504,347		3,182,385		147,735

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成24年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成24年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 109,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 21,199,000	21,199	
単元未満株式	普通株式 196,347		一単元(1,000株)未満の株式
発行済株式総数	21,504,347		
総株主の議決権		21,199	

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式822株が含まれております。

【自己株式等】

平成24年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社安楽亭	埼玉県さいたま市中央区 上落合2-3-5	109,000		109,000	0.51
計		109,000		109,000	0.51

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりであります。

役職の異動

新役名及び職名	旧役名及び職名	氏名	異動年月日
代表取締役専務	常務取締役	柳 先	平成24年8月1日

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成24年10月1日から平成24年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成24年4月1日から平成24年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、監査法人アヴァンティアによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	999,864	1,228,159
受取手形及び売掛金	288,272	265,844
商品及び製品	89,159	156,483
仕掛品	326	811
原材料及び貯蔵品	230,144	319,472
前払費用	216,623	207,815
繰延税金資産	2,733	1,078
その他	129,359	130,900
流動資産合計	1,956,482	2,310,567
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2,697,949	2,486,016
機械装置及び運搬具（純額）	19,958	18,373
工具、器具及び備品（純額）	75,069	74,444
土地	5,991,424	5,762,685
リース資産（純額）	20,304	21,988
建設仮勘定	183	-
有形固定資産合計	8,804,890	8,363,507
無形固定資産	103,222	113,579
投資その他の資産		
投資有価証券	63,830	64,414
長期貸付金	911,971	875,368
長期前払費用	29,822	25,749
繰延税金資産	10,348	10,010
敷金及び保証金	2,931,177	2,789,863
その他	58,381	55,926
貸倒引当金	737,530	736,973
投資その他の資産合計	3,268,001	3,084,359
固定資産合計	12,176,113	11,561,447
資産合計	14,132,596	13,872,014

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	498,372	594,419
短期借入金	6,843,494	6,556,120
リース債務	5,443	8,875
割賦未払金	60,828	15,207
未払金	214,915	221,512
設備関係未払金	61,985	21,766
未払費用	451,194	471,361
未払法人税等	90,181	70,973
未払消費税等	45,665	76,197
賞与引当金	61,400	29,955
転貸損失引当金	2,680	2,680
その他	447,296	456,826
流動負債合計	8,783,458	8,525,897
固定負債		
長期借入金	11,400	-
リース債務	15,876	24,433
長期割賦未払金	7,301	437
繰延税金負債	115,566	115,700
退職給付引当金	122,052	125,749
役員退職慰労引当金	249,637	267,510
転貸損失引当金	31,367	29,490
その他	68,985	72,034
固定負債合計	622,186	635,355
負債合計	9,405,644	9,161,252
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,182,385	3,182,385
資本剰余金	2,537,261	2,537,261
利益剰余金	909,540	924,861
自己株式	66,105	66,875
株主資本合計	4,744,001	4,727,909
その他の包括利益累計額		
その他の有価証券評価差額金	24,369	24,008
その他の包括利益累計額合計	24,369	24,008
新株予約権	7,320	6,860
純資産合計	4,726,951	4,710,761
負債純資産合計	14,132,596	13,872,014

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】
【四半期連結損益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
売上高	11,077,668	11,844,181
売上原価	4,061,212	4,378,865
売上総利益	7,016,456	7,465,316
販売費及び一般管理費	7,190,778	7,486,848
営業損失()	174,322	21,532
営業外収益		
受取利息	26,440	25,392
受取配当金	1,289	1,570
受取地代家賃	8,012	8,340
貸倒引当金戻入額	1,700	476
その他	27,958	37,869
営業外収益合計	65,401	73,650
営業外費用		
支払利息	133,450	119,733
その他	8,928	8,720
営業外費用合計	142,379	128,454
経常損失()	251,300	76,336
特別利益		
固定資産売却益	2,476	1,079
受取補償金	30,464	251,912
特別利益合計	32,941	252,992
特別損失		
固定資産除却損	1,502	69
減損損失	6,128	123,095
賃貸借契約解約損	8,004	5,972
特別損失合計	15,636	129,137
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失()	233,995	47,518
法人税、住民税及び事業税	52,097	60,846
法人税等調整額	41,913	1,992
法人税等合計	94,011	62,839
少数株主損益調整前四半期純損失()	328,006	15,320
四半期純損失()	328,006	15,320

【四半期連結包括利益計算書】
 【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純損失()	328,006	15,320
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	3,765	361
その他の包括利益合計	3,765	361
四半期包括利益	331,771	14,959
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	331,771	14,959

【継続企業の前提に関する事項】

該当事項はありません。

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)
<p>連結の範囲の重要な変更</p> <p>連結子会社のうち、㈱サリックスマーチャングイズシステムズ(存続会社)と㈱デイリーエクスプレス(消滅会社)及び㈱相澤(存続会社)と㈱二十一屋(消滅会社)は、平成24年4月1日付で合併しております。</p>

【会計方針の変更等】

当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)
<p>(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)</p> <p>当社及び連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。</p> <p>これにより、従来の方法に比べて、当第3四半期連結累計期間の営業損失及び経常損失は2,155千円減少し、税金等調整前四半期純利益は2,155千円増加しております。</p>

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

該当事項はありません。

【追加情報】

該当事項はありません。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

保証債務

連結会社以外の会社の金融機関等からの借入に対して、債務保証を行っております。

前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
<p>㈱書楽 222,125千円</p>	<p>㈱書楽 206,114千円</p>

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

前第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)
<p>減価償却費 312,405千円</p>	<p>268,318千円</p>

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注)1	四半期連結損 益計算書計上 額 (注)2
	安楽亭業態	七輪房業態	その他業態	計			
売上高							
外部顧客への売上高	9,401,538	1,223,378	452,751	11,077,668	11,077,668		11,077,668
セグメント間の内部売上 高又は振替高							
計	9,401,538	1,223,378	452,751	11,077,668	11,077,668		11,077,668
セグメント利益又は 損失()	170,518	19,678	36,440	153,757	153,757	328,079	174,322

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額は全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(注) 2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「七輪房業態」セグメントにおいて、1店舗が閉鎖予定のため、減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては6,128千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注)1	四半期連結損 益計算書計上 額 (注)2
	安楽亭業態	七輪房業態	その他業態	計			
売上高							
外部顧客への売上高	10,034,640	1,369,332	440,209	11,844,181	11,844,181		11,844,181
セグメント間の内部売上 高又は振替高							
計	10,034,640	1,369,332	440,209	11,844,181	11,844,181		11,844,181
セグメント利益又は 損失()	301,117	82,824	41,448	342,493	342,493	364,025	21,532

(注)1. セグメント利益又は損失の調整額は全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(注)2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更に記載のとおり、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更したため、報告セグメントの減価償却の方法を改正後の法人税法に基づく方法に変更しております。

当該変更により、従来の方法に比べて、当第3四半期連結累計期間の「安楽亭業態」のセグメント利益が1,382千円増加し、「七輪房業態」のセグメント利益が223千円増加し、「その他業態」のセグメント損失が389千円減少しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「安楽亭業態」セグメントにおいて、減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては99,579千円であります。

報告セグメントに帰属しない全社資産について、減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては23,516千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
1株当たり四半期純損失金額()	15円33銭	0円72銭
(算定上の基礎)		
四半期純損失金額()(千円)	328,006	15,320
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純損失金額()(千円)	328,006	15,320
普通株式の期中平均株式数(株)	21,395,678	21,394,879
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年2月13日

株式会社 安楽亭
取締役会 御中

監査法人アヴァンティア

代表社員
業務執行社員 公認会計士 小笠原 直 印

業務執行社員 公認会計士 入澤 雄太 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社安楽亭の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成24年10月1日から平成24年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成24年4月1日から平成24年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社安楽亭及び連結子会社の平成24年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。
以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が四半期連結財務諸表に添付する形で別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。